

(別紙5)

整理番号 2020P-111
補助事業名 2020年度 豊かな自然と動植物を大切にする活動 補助事業
補助事業者名 公益財団法人世界自然保護基金ジャパン

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

項番1 佐賀・熊本地域モデルの推進

日本の生物多様性上重要な役割を担っている地域で水田・水路の生物多様性と農業の共生を進める地域モデルを構築する事業を進めるため、まずは農業者および流通・消費を担う関係者、次いで消費者に水田・水路の生物多様性の理解と行動を促すことを目的とする。

項番2 横浜地域モデルの推進と他都市展開

2021年3月までに横浜市が持続可能な街として評価されている。評価の基準とは、温暖化対策として企業に対して再生可能エネルギーの導入促進のしくみができていること、およびライフスタイル転換の具体策として、環境に配慮した製品の市場拡大施策が展開されていること、である。

その基盤として持続可能な社会を求める市民を増やすために、「地球1個分の暮らし教育プログラム」を市内小中高等学校内で継続実施し、環境イベント開催を通じて地域の協働者を育成する。さらに国内の他の地域への展開のステップとする。

(2) 実施内容

項番1 佐賀・熊本地域モデルの推進

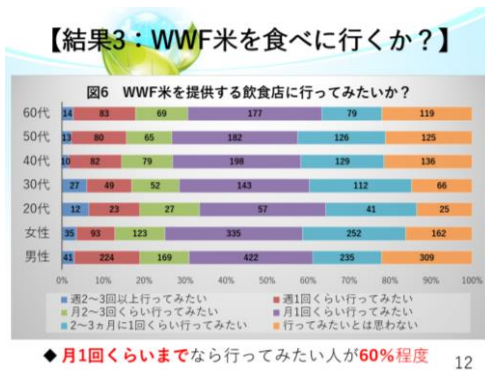
<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/209.html>

本事業では、コメに関わる農業と生物多様性の現状の理解を促進するため、複雑に関係する農業と生物多様性の現状や消費者意識に関する情報をまとめ、発信した。2020年度中に、コメづくりの重要性が理解されるような基礎資料、普及ツール、消費者アンケート調査などを制作・実施し、オンラインで勉強会を3回開催した。



- ①プロジェクト概要資料
淡水に関する基礎情報などからプロジェクトの重要性を整理

- ②ロールプレイ資料
コメに関係する仮想の人物像をつくり、その役になりきることで複雑に関係する農業と生物多様性の現状の理解促進を図る資料を制作



WWF 米の販売拡大に向けた付加価値創出

生物保全米は無農薬・減農薬米と同質とされてしまうため、水田生物保全米以外の差別化も必要。保全活動のストーリーに加えて、差別化につながるお米の商品価値を生み出し、消費者の米の商品価値は様々な構成要素がある。保全活動の本質からふれられない付加価値づくりが必要。

生物保全米の商品価値 (消費者が認める付加価値)

コメの商品価値 (消費者が認める付加価値)

米田生物保全というストーリーに加えて、米の消費につながる新たな価値を付加する

米の商品価値を生み出すキーワード

- 商品価値
- デザイン
- 体験価値
- イメージ
- 健康
- 無農薬

消費者は米の消費活動以外に商品に付加価値を付けることで、ターゲット層を拡大する

- ③消費者アンケート調査
2000名へのWEBアンケートにより、生物多様性を保全したコメに関する消費行動動向を把握

- ③指標
事例を踏まえて、コメ付加価値創出のための考え方や指標などを整理

<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/4586.html>

項番2 横浜地域モデルの推進と他都市展開

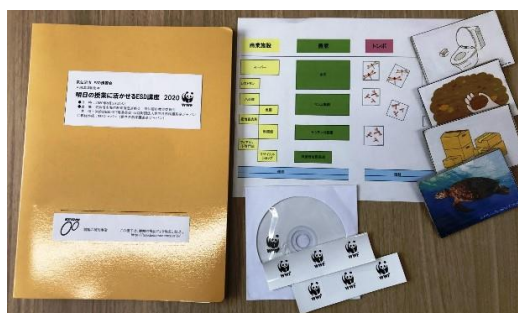
<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3962.html>

①地球1個分の暮らし教育プログラムの推進

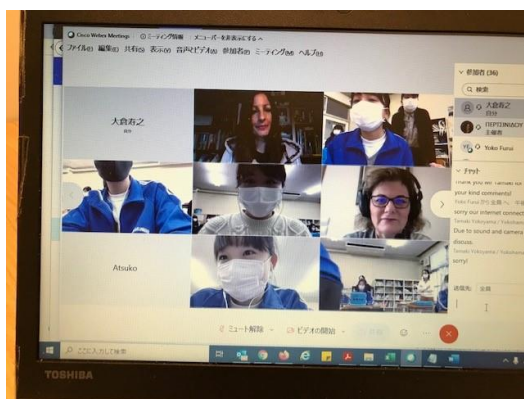
横浜市の中川西中学校では、9月に教員30人が受講するESD講座「One Planet Lifestyle」を開催した。受講した教員が主体となり、WWFが紹介するギリシャの小学校と国際交流を実施した。横浜市三保小学校、新田小学校でも教員がそれぞれ36人、29人受講した。

(別紙 5)

また東高校と南小学校は香港の学校と国際交流した。また、他都市展開として、2020年8月には宮城県気仙沼市面瀬小学校の教員30人にESD講座を実施した。その後教員が主体となり、WWFが紹介するインドの小学校とオンライン交流をおこなった。9月には鹿児島市の教員19人を対象にESD講座を実施した。



教員向け ESD 講座の様子 (気仙沼市) 教材



WWF Greece & WWF Japan: Kalimera-Sayonara- A Greek-Japanese school friendship

On Thursday, March 4th the 2nd High School of Gerakas in Attica, Greece bid the last Sayonara to the Nakagawa Nishi Junior High School from Yokohama, Japan. This Japanese goodbye brought a closure to a series of meetings between 150 pupils of the two schools throughout the last two months. Due to the time difference the 7 meetings in total took place in the small hours of the morning for the Greek pupils who woke up early, excited to catch with their Japanese friends.

The meetings gave the pupils a chance to present to one another their cities, countries, cultures and schools and their environmental actions on plastic pollution reduction. After the presentations the pupils had a chance to discuss amongst themselves in small mixed groups and exchange views on this major environmental issue. Each group then went on to present their proposals to the plenary. It was a wonderful chance to raise the pupils' awareness of plastic pollution and discover alternative solutions. They acquired presentation, organizational and communication skills, practiced them in a different language and took a first step to becoming environmentally responsible and active citizens. Both WWF Greece and WWF Japan, who organised the school 'twinning' had presentations in the meetings. You can see the padlet they co-created [here](#).

This initiative was the result of a global education workplace post from WWF Japan asking interested schools via our WWF global education network. The feedback from the teacher and the pupils that we got is amazing and we would really like to promote those kinds of opportunities. Anyone interested in bringing together schools from different countries to discuss our major environmental issues?

For more information, contact: Eleni Svoronou, e.svoronou@wwf.gr
<http://contentarchive.wwf.gr/WWFEnvEdBulletin/March2021/austria2.jpg>

(左) 横浜市立中川西中学校とギリシャ 2o Gymnasio Gerak の Webex の様子
(右) WWF newspaper worldwide に掲載された記事

<https://www.wwf.or.jp/staffblog/activity/4406.html>

<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4461.html>

<https://www.wwf.or.jp/staffblog/activity/4430.html>

② 環境イベント「アースアワー」の開催

2021年3月27日にアースアワー横浜を横浜市役所1階アトリウムにて無観客で実施した。当日は、横浜市内の大学生、企業の若者、NGOらが参加し、多数のプログラムを配信した。また、考える場づくりとして、プレイベントであるオンラインセミナーを計6回開催した。アースアワーの趣旨である「地球温暖化防止」と「環境保全」の意志を示すアクションを広く市民に伝えるとともに、今年は特に若者世代の参加を重視した取り組みを行った。

他都市展開として、アースアワーひろしま Earth & Peace におけるオンライン環境教室の実施および「地球1個分の暮らし教育プログラムの推進」活動を通じて関係が構築された鹿児島市による参加も得られた。

(別紙5)

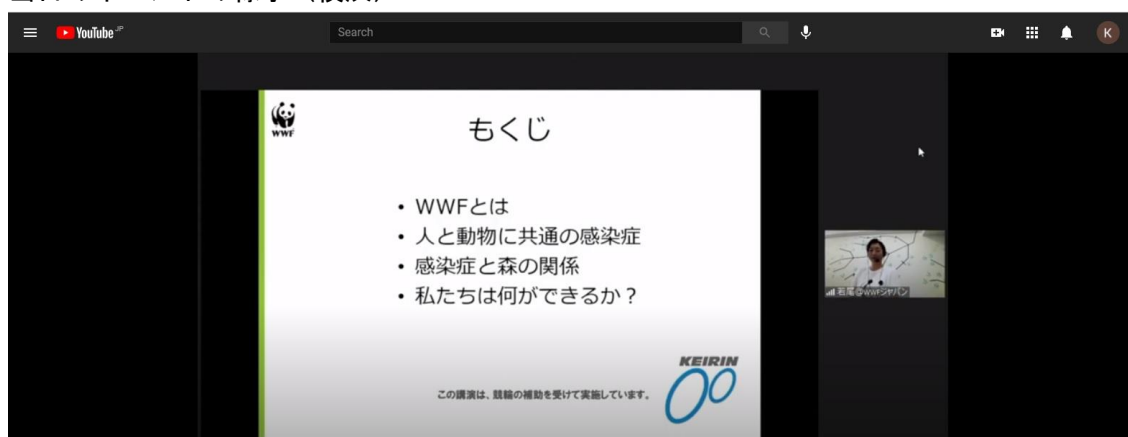


オンラインイベントセミナー

<http://yokohama.localgood.jp/event/36484/>



当日のイベントの様子（横浜）



当日オンラインイベントの配信画面（広島）

YouTube（横浜、当日累計動画視聴回数 1547回）

<https://www.youtube.com/channel/UCyHSnTCLEJM8sc1tVPfklpw/>

YouTube（広島、当日累計動画視聴回数 180回）

<https://www.youtube.com/watch?v=MKMGrvTpOzU>

Facebook（横浜、当日累計動画リーチ数 1776回、）

<https://www.facebook.com/earthhour yokohama/>

参加自治体リスト

<https://www.wwf.or.jp/activities/addinfo/4594.html>

(別紙5)

2 予想される事業実施効果

項番1 佐賀・熊本地域モデルの推進

農業者・消費者・関連企業の生物多様性への理解が進むことで世界的な課題である持続可能な農業の推進へ貢献し得る。また、プロジェクトサイトで生産される農産物に対して、コメを調達する関係者の理解の促進や、関連して制作した中高生向けの普及啓発ツールと相互に関連することで、若者と農業者の世代間交流の活発化が一層進む。さらに、成果を国内外で共有することで、将来の他地域への応用が期待される。

項番2 横浜地域モデルの推進と他都市展開

学校でのESD教育や市民が中心となった環境イベントの開催により、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の達成も含め、世界的規模の環境問題を理解することにつながった。とくに、アースアワーでは横浜市が主体的に温暖化対策の普及イベントとして取り入れることとなったこと、他都市へ広がっていることは将来につながる成果である。また、横浜市をモデルとして、教育委員会と学校と協力して、「One Planet Lifestyle」教育プログラムを実践できた。とくに国際交流が、香港、ギリシャ、インドと広がっていき、教員たちが主体的におこなっていることは事業実施の大きな成果と言える。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

項番1 佐賀・熊本地域モデルの推進

①プロジェクト概要資料 <https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/4586.html>



【動画紹介】 田んぼならではの自然を知っていますか？

近年、日本で急激に失われている、水田・水路の豊かな自然。そこは、絶滅の危機にある淡水魚など、多くの野生生物のすみかでもあります。この保全に取り組みWWFのプロジェクトを紹介する動画が完成しました。動画は、地域の農業や行政にかかわる方々に向け作成したもので、田んぼの自然の大切さとともに、その保全には、子どもたちをはじめ、

地域のかかわりが必要であることを伝えるものです。

WWFの活動 資料・レポート

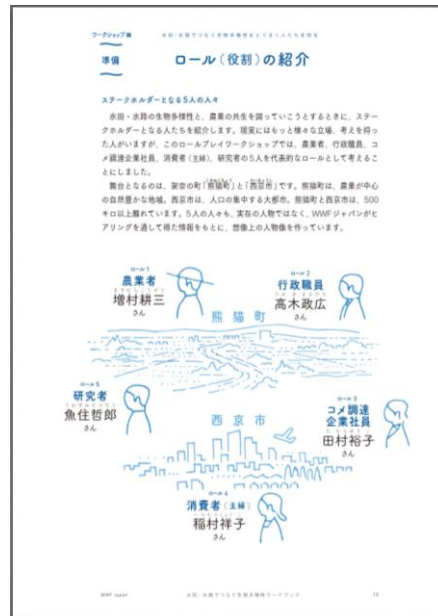
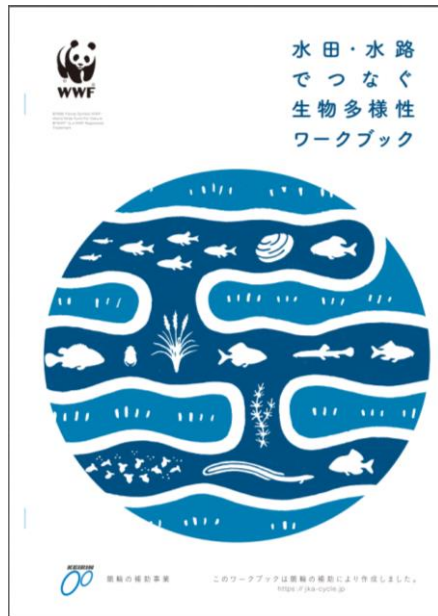
2020-04-30

※この取り組みは、競輪の補助を受けて行なわれました。

CYCLE JEA Social Action

あなたの支

②ロールプレイ資料



③指標・消費者アンケート調査



項番2 横浜地域モデルの推進と他都市展開

① EARTH HOUR 2021 in 横浜オンライン配信告知パネル

当日オンラインイベントの間に複数回、横浜市役所 1 F アトリウム大画面に映し出された。

(別紙5)



③ One Planet Lifestyle 「教材」

地球温暖化、プラスチックごみ、森林破壊、海洋汚染、負荷の大きなライフスタイルなど、地球環境問題を学ぶことができる教材。推理したり、体を動かしたりしながら、学習者主体で学ぶアクティブラーニング用アクティビティが多数収められており、授業での実践を促す教材となっている。



(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

項番1 佐賀・熊本地域モデルの推進

① STEAM 教材

<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4596.html>

農業と生物多様性の保全を両立するには？

動画をまとめてDL PDFをまとめてDL

概要

農業と生物多様性の保全を両立するにはどうすれば良いでしょうか？この問いにあなたはどのように答えますか？ 研究者、行政、農家、米屋、自然保護団体など様々な方の話を動画で視聴し、ワークシートで九州を舞台とした農業や生物を取り巻く自然環境や社会環境を学びます。探究活動では、生物多様性米のブランディングや水路や土地利用のデザイン、様々な役割に分かれてのディスカッション、アートなど自分に合ったスタイルでのアウトプットの方法を扱います。農業と生物多様性の保全の両立という正解がわからない問いに対して、どのような答えを見出すのか、チャレンジしてみてください。

ポイント

海城中学高等学校×WWFジャパン

SDGs

学年

中学 高校

キーワード

淡水魚 稲作 流域治水 スマート農業

環境保全 アート

これも好きかも

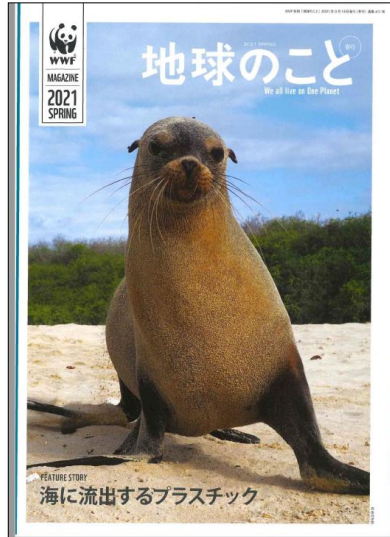
おのアイデアが街を救った

テクノロジーを通じた災害の課題解決

(別紙5)

項番2 横浜地域モデルの推進と他都市展開

① WWFジャパン会報「地球のこと」2021年春号



② アースアワー2021 in YOKOHAMA 特設ウェブサイト

<http://yokohama.localgood.jp/earthhour2021/>

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 公益財団法人世界自然保護基金ジャパン
(セカイシゼンホゴキキンジャパン)

住所： 〒108-0073

東京都港区三田1丁目4-28 三田国際ビル3階

代表者： 会長 末吉竹二郎 (スエヨシタケジロウ)

担当部署： 淡水・教育・PSP室 (タンスイ・キョウイク・ピーエスピーシツ)
ブランドコミュニケーション室 (ブランドコミュニケーションシツ)

担当者名： 佐賀・熊本地域モデルの推進ー並木 崇 (ナミキタカシ)
横浜地域モデルの推進と他都市展開ー清野比咲子 (キヨノヒサコ)

電話番号： 03-3769-1711

F A X： 03-3769-1717

E-mail： communi@wwf.or.jp

U R L： <https://www.wwf.or.jp/>